

# 自然休養林の現状と今後の課題

岡崎営林署 尾張森林事務所 森林官 梅田英孝

## 1. はじめに

### (1) 部内自然休養林の概要

尾張森林事務所部内には、犬山八曾自然休養林と定光寺自然休養林があります。

犬山八曾自然休養林は、犬山市の東部にある犬山国有林と八曾国有林を合わせて面積は1,157 HAであります。過去3ヶ年の平均利用者は約12万人で、主に春から秋にかけて利用されています。

定光寺自然休養林は、瀬戸市の北部にある瀬戸国有林で面積は715 HA、過去3ヶ年の平均利用者は54万人となっておりほぼ年間を通じて利用されています。

### (2) 部内自然休養林の問題点

部内の自然休養林指定は、定光寺自然休養林が昭和44年4月、犬山八曾自然休養林が昭和49年3月で、指定後長い年月が経過しており、施設の老朽化や整備などの遅れからその不備が目立つようになってきました。

### (3) 犬山八曾自然休養林の状況と整備への取り組みと今後の課題

当休養林は地元とのつながりが強く、受益団体が休養林を主体として民有地での受入れ整備を進めていることから、地元の協力を得ながら休養林の整備を進める方策について、その現状と課題などについて報告し、今後の論議に役立てたいと考えます。

## 2. 犬山八曾自然休養林の概況

犬山八曾自然休養林は、犬山地区と八曾地区に分かれており、犬山地区は眼下に木曾川が流れ国宝犬山城が遠望できます。八曾地区は、名古屋市から約1時間の距離に位置し、入鹿池・明治村・リトルワールドなどの観光地に恵まれた犬山市の東部丘陵地帯にあります。

## 3. 八曾地区の概況

犬山八曾自然休養林の利用者のうち大部分が八曾地区を利用するため、八曾地区について考察・報告をすることとします。

八曾地区の面積は751 HA、標高が330mの黒平山を中心に中央を五条川が流れています。

春と夏は森林浴やキャンプを楽しむ人達で騒然としたにぎわいを見せ、秋は紅葉狩りや落ち葉を踏みしめて散策する人達でにぎわうなど、ほぼ四季を通じて利用されています。

また最近ではマウンテンバイクで入林する若者が増えてきました。隣接する民有地ではオートキャンプ場が開設され手軽なレジャーとして利用者は年々増加しています。オートキャンプに訪れた人達も含め自然休養林への入り込み者は今後更に増加するものと考えられます。

#### 4. 地元の協力による八曾地区整備の取り組み

八曾地区を訪れる人達は大部分がマイカーであるため、国有林内にある通称「縦の木駐車場」だけでは収容しきれず、民有地に有料駐車場が開設され、その面積は年々拡張されています。

「縦の木駐車場」は無料でありましたが、平成4年7月から11月までの間有料化し、料金の一部を環境整備協力のかたちで徴収することにしました。この実施については、料金の徴収方法、有料化のための駐車場整備など新しい試みのため各方面のご指導を得ながら進めてきました。その結果、大きなトラブルや苦情もなく約1400代の利用車がありました。

料金の徴収は、地元入鹿地区で組織する入鹿森林愛護組合に委託しました。この組合は八曾キャンプ場の委託運営など営林署と深いつながりがあります。

駐車場の有料化に伴って、5ヶ年を見越した森林整備の予算が付き、隣接するトイレの内装や屋根の張り替えなどの改修を行い、この他に「縦の木駐車場」整備、雨天時の避難小屋新設などを4年度事業として実施しています。しかし施設全部を改修することはできませんし、今後も予算の配付を切望するところであります。八曾地区にある施設は管理舎・休憩所・炊事場などですが、キャンプ場に隣接しているトイレは早急に改修することが望まれています。

#### 5. 八曾地区の地元協力組織の活動と問題点

八曾地区には、前出の入鹿森林愛護組合のほかに今井森林愛護組合、八曾川養漁組合があります。

この3つの組合が自主的に施設の部分的修繕や林内清掃に協力しています。

しかし、入林者のマナーの悪さによる空きカンなどの投げ捨てゴミが非常に多いことや、建物等の新築・移築・大修繕等の当方で実施すべき整備が進んでおらず、利用者や受益（協力）団体からも強い要望が出されています。

4年度の犬山八曾自然休養林における労務の状況は、基幹作業職員が21人工臨時作業員が、58人工となっています。

作業の内容は、林内清掃と施設整備が大半ですが、これだけの労務数では必要な対処ができないのが現状であります。

当事務所の基幹作業職員は1名で、5年度には退職年齢に達し、臨時作業員も高齢であることから、長期の雇用は見込めず新たな作業員の確保が難しく、今後の大きな課題となっています。

## 6. 「地域総合防火対策治山事業」の実施による機能の向上

5年度から八曾国有林が地域総合防火対策治山事業地区に指定され、3ヶ年計画で防火貯水ダム、管理車道、防火樹帯造成などの整備が行われることになりました。

この事業は、山火事の未然防止や消火活動が迅速に行えるように整備するもので、長年山火事発生への心配をしてきた私たちの問題が解決するとともに、自然休養林機能も大幅に向上すると考えられます。

## 7. 八曾地区の交通問題

八曾地区への交通は、中央道小牧インターチェンジから15分、尾張パークウェイから10分と便利ですが、入口から「縦の木駐車場」までの約1000mの区間が市道となっており、整備が進んでいないため、地元自治体に働きかけをしているところであります。

## 8. まとめ

現在の問題点と今後の課題を整理しますと、

- (1) アクセス道路は地元自治体に協力を要請し、運営などの連携を強化
- (2) 現在ある施設の改良、改築、新築、場所の拡大、景勝地の整備、標識等の建て替え
- (3) 管理道と遊歩道の関連させた歩道網の整備
- (4) 周辺の貸付地の整理と有効活用
- (5) 施設を直接運営する受益団体への協力と助成、委託・受益の強化による相互関係の綿密化

この他に、現在の自然休養林の林相はスギ、ヒノキが主体となっているため、見て楽しめる花や実のある樹種に転換することも必要であると考えられます。

自然休養林の利用者にとってそこが国有林であるか民有林であるかが問題ではなく、快適な環境であるか利用しやすい施設かどうか問題であります。今後、益々多様化するレジャーにどこまで応えることができるのか国有林の利用と収益に結びつくものと考えられます。

国有林野事業の大切さを国民に理解してもらうには、時間と経費が必要であることは勿論ですが、そこに働く私たちが、それぞれの立場で創意工夫し国民の理解と協力を得られるよう努力することが大切であり、私もその先端部に働く者として努力して参りますので、皆様のご協力を更にお願いたします。